

日時：2009年11月9日18:30~20:30

場所：ハートピア京都第4会議室（4階）

- 議題：1. 第1回定例会議(10月24日)の振り返り
2. 第2期議題のチーム決定について
3. 第2期議題チームへの運営事務局のフォロー体制について
4. 第2回定例会議のプログラム案について
5. 交通費の支給について
6. 運営サポーター創設について
7. その他

1. 第1回定例会議(10月24日)の振り返り

●アンケート結果報告（別紙参照）

- ・ アンケート分析の結果、プログラムに対する評価が、新旧委員で感じ方の違いが大きい。
- ・ アンケートへの運営事務局の対応方法として、全体対応と個別対応を分けて対応する方針である。特に、全体に対し回答すべきことは次回の資料などに記載していく。

●重要検討項目への対応

- ・ オープンマイクなどで出された意見について、運営事務局として以下の対応を考えている。
 - 1) 成果報告書を提出したが市からの反応はもらえないのか？この委員会は「要望を出したら市からの返答が来る」、そういう委員会とは違うのか？
 - この委員会のあり方について、運営事務局として「行政市民を巻き込みながらやっていく委員会ということを」繰り返し周知の機会を持つ。
 - また各チームの行政と話をしたいという要望により速やかに応えていく。
 - 2) リーダー幹事会での話を全員に流して欲しい
 - 議事録作成と配付について、今後、リーダー幹事会議での議事録は、早急の作成と配付をする。
 - 作成手続き：①運営事務局にて議事録案を作成（4日以内）
②リーダーML（幹事もMLメンバー）にてチェック（1~2日）
③修正後に、【運営事務局通信】に添付やHPでの公開を行う（1週間後）
 - 3) プログラムの中味の連絡が遅かったから、大事な会議なのに参加者が少なかった。
 - 事前に、開催内容をより早く（1週間前）【運営事務局通信】にてお知らせする。
 - 4) 出した議題がどうなっていくか不安。融合や消滅も含めて。
 - これについては、本日の議題【2】で協議
 - 5) 議題出しの話し合いの際に作成した模造紙のデータはどうなるのか。
 - 全てデジカメ写真で撮影しているので、お申し出頂ければ、お渡しする。

2. 第2期議題チームの決定について

●議題チームへの登録状況<現在登録数117委員（別紙参照）

- 運営事務局としては以下の考え方により、登録において一定以上の登録数があった議題を、第2期の議題チームとして決定を行うことを提案する。
 - ・ まず100委員会が他の市民や行政、企業なども巻き込んで行動していく市民組織であるという観点から、委員会で一定以上の賛同者を得られるものである必要がある。
 - ・ また、議題チームについても、検討を進める中で市民にも理解・協力いただけるような結論を導き出すことが必要であり、チームとしての議論や活動に困難を伴うことが無いように、ある程度の人数で活動していただくことが必要であると考えている。
 - ・ これらの理由から、100人委員会で取り扱う議題については、1期のチーム編成の基準とさせていただいた人数と同等程度が妥当ではないかと考えている。

3. 第2期議題チームへの運営事務局のフォロー体制について (別紙参照)

- 行動に向けて、事務局が議題チームと協働していく。
 - ▽ヒアリングや各議題チームの会議に参加することで、議題チームの目標や活動内容を整理
 - ▽各委員の意見を聞きながら、議題チームごとの支援内容の検討を行う。
 - ▽京都市担当者等との事業の実施に向けたミーティングの設定
 - ▽議題チームの状況に沿った市政などの情報提供
 - ・議論に役に立つ情報の提供
 - ・助成金などのプロジェクトに役立つ手法、情報の提供
 - ▽スキルアップ体制のバックアップ
 - ・勉強会の開催など

- 別途、委員の皆様と御相談しながら、フォロー項目の追加を行う

4. 第2回定例会議のプログラム案について (11月28日/御池創生館)

- プログラム案
 - ▽勉強会 (11:00~12:00/任意参加)
 - 『仮：京都のまちづくりを振り返る』
 - 講師：乾 亨氏 (立命館大学)、他 (調整中)
 - ▽オープニング (13時~13時半)
 - ・2期チームの決定のアナウンス
 - 決定チーム一覧の提示
 - 前回欠席・所属が決まっていない委員の動き方の説明→実際の動き方
 - ・その他運営事務局からの連絡
 - 前回のオープンマイクなどを受けて
 - 運営事務局ブースの使い方
 - ※今回は時間厳守で始める
 - ▽議題チーム会議 (13時半~16時半)
 - ※最初に、2期前半の何かしらの目標や方向性が確認できるよう、チーム毎に運営事務局が対応する
 - ▽全体集会 (16時半~17時)
 - ・オープンマイク
 - ・運営事務局からのアナウンス

- プログラム検討事項
 - ▽他の議題チームでどのようなことが話し合われているか、どんなことが行われているかを、委員が知る機会がない。特に新規委員にとっては、チームに分かれると他の議題の様子が全くわからない。議題チームにとっても、新規委員や他のチームの協力を得るための接点を作る機会がない。
 - 各議題チームでの議論や行動の内容を、委員会全体で共有し、チームの壁を超えて意見交換や進捗の確認ができる場が必要ではないか。
 - 一つの方法として、1期でも行ったワールドカフェを各回の最後に行う方法が考えられる。
 - 他にも、毎回の定例会議の前後に、各チームから「<前>前回定例会議では、またそれ以降に何が前に進んだか」「<後>次ぎに向けてのチームの方針・告知・勧誘」などを発表してもらい、委員全体から意見をもらう場をつくるなどの方法も考えられる。

5. 交通費支給について

- 現在、交通費相当額として支給されている1,000円について、考え方を京都市からお伝えする。

6. 運営サポーター創設について

- 「100人委員会運営サポーター」というような形で、傍聴者など、より多くの人を巻き込んでいくための仕組みを設けることはできないか。

- 100人委員会運営サポーターの提案

- ▽主旨

- ・ 100人委員会の共感（共汗）の輪を広げる仕組みをつくる
傍聴者として参加する市民がより積極的な支援者として活動できる仕組みとして
各チームが支援者を増やす際の受け皿として
100人委員会卒業者が継続して関わる仕組みとして

- ▽活動

- ・ プロジェクトチーム、議題チームの活動サポート
 - ・ 公開フォーラム、勉強会、全体会議の運営サポート
 - ・ チーム間の情報共有や協力・連携のサポート

- ▽組織化

- ・ 委員と同様の情報を共有（基本メールにて運営事務局より情報発信）

7. その他

- 第2期リーダー幹事会の連絡体制について

- 第2回定例会議にて第2期リーダー（サブリーダーや連絡役を含む）の確定を行った後、リーダーMLへの再登録を行う。

- 次回、リーダー幹事会議日程について

- 第3回定例会議は、3週間後の12月19日と日程が迫っておりタイトです。
次回リーダー幹事会議は、12月第2週の内でお願います。

第1回定例会議 委員アンケート集計

1期からの委員コメント	新委員コメント
■第1回会議についての感想	
1期からの委員にとっては、議題チームでの議論の時間が欲しかった	時間が長く感じられ、要点を絞ればもう少し短くなれば・・・。
プログラムを行動へのより実利的なものにして欲しかった	思ったよりずっと進行がスムーズで安心した
運営・進行が稚拙	京都のことを少し知りました。
最初の自己紹介タイムは果たして役に立ったのかと思った。(申し訳ございません)後の議論の時間が少なくて消化不良で終わったような。第2期は1期の実現の場に！	人との出会い。そのみなさんの志は高く清らかなこと。楽しかったです。頑張ります。
時間を短くできたのでは！？	同じ気持ちを共有できる人達と熱い討論・話し合いができてよかった。
時間配分 少し疲れた！	いろいろな方の貴重な意見を聞けて有意義だった。
議案書が各委員に十分伝わっていないせいか、その評価をふまえた深い議論がなかった。個々の議案書を新旧委員に提供し、それに対する意見・賛否を集約する作業が必要ではないか。上すべりになるような気がする。特に新委員には、1年間の経緯の中の資料を選択提供することが必要	進行よかったです
1期から2期に移行するにあたり、今日はとても重要な位置づけだと思いますが、事前にそれがあまり伝わっていませんでした。事前の欠席者が多かったのが残念。	色々な方と話せて勉強になりました。
言いたいことを言わせて頂いて、共感して頂いたので。課題に賛同して下さる方が(新しい)来て下さった。	市民主体感がとても感じられる。頭の中で考えていたことが今回から発信できるようになった。
今までのグループの意見だけでなく、新しい意見もあり、聞いてて、また話してて楽しかった。	同じ気持ちを共有できる人達と熱い討論・話し合いができてよかった。
フリートークの時間は有意義でした。いい提言がでていた。	人との出会い。そのみなさんの志は高く清らかなこと。楽しかったです。頑張ります。
他の議題チームから意見を頂く機会があり有意義だった	初めてなので人の交流も無いし、地域によって違うため、難しいと思った。
チーム員が増えた。自分達のテーマが大事だと少しずつ認識されつつある。	同じ気持ちを共有できる人達と熱い討論・話し合いができてよかった。
■やってみたいこと	
第1期での課題を実現させたい。	皆さん色々な、とても熱い熱い思いをもっていられることがわかりました。徐々に、自分も熱い思いをぶつけていければと思います。
100人委員会でもちセンの「町家調査」に参加しませんか	初めてなので人の交流も無いし、地域によって違うため、難しいと思った。
「100人」の意識をしっかりと持てるようなプログラムで進め、共有やワークショップを重ねていけたらよいと思います。	
他のチームに呼びかけてのイベント。	
■新旧委員についての不安	
新旧の混ぜ方が難しい。	初めなので人の交流も無いし、地域によって違うため、難しいと思った。
新規の人がなじめるかどうか。	
新しい人とのギャップ。温度差がどうなるか・・・。	
新しく入れた方のネームプレートの色を変更すればより親しくなるのでは？	立食・パーティ、飲み会
新しく入れた方のネームプレートの色を変更すればより親しくなるのでは？	未来委員会で京都市役所他学校との・・・。
■他チームとの連携について	
関係が深い複数の議題に同じように関わりたいのですが、良い方法はないでしょうか？	面白いチームに入れた。文句ばかりの批評家の方々とうんざりしました。2期目からの参加ですがげんなりしています。ああいう人にならず、「行動」していこうと感じました。
みつばちが大事なんだけど、やっぱりチームを推進する議論に時間をとりたい気持ちになるんだよね～	参加したいチームが見つかった。新規委員なので溶け込めるかどうか。非常に内容の濃い4時間だった。
他のチームの活動が互いにある程度リアルタイムにわかるような仕組みがあればミツバチチームがなくても済むと思う	3期くらいになるとまるで先輩後輩の雰囲気ができがちとなる。予め工夫すべき。
チーム同士の「はち」？交流くらいはしたいなあ。チームとしては難しいと思うが「はち」のような存在が出てきてもいいのではないかと？リーダー幹事会は「はち」になるのがベター	
■新規議題／議題チームについて	

1期からの委員コメント	新委員コメント
日本の将来のために未来の人づくりが不可欠です。人数に限らず(5人でも)2期で産みっぱなしで殺してしまうことのないよう、産み育てられますように。	チームを1つ選ぶというのに大変困りました。何とか決めたものの、「みつばち」も気になっています。会議だけでなく「実行」が見えるのもっと良いのだと思いました。
生き残って欲しい議題が今のままでは今後どうなるか不安です	自分がどのような形で貢献していけるのか、まだ具体的に見えていないところが不安です。
新規の人が提案した内容が、残りにくいんじゃないかなあ…。	チームごとにやり方がバラバラな印象を受けました。2つのチームに入れるように検討してほしい。
	途中から参加して新しいチームを作るのは難しいと感じた
	テーマの分野・領域がやや狭い気がする。追加テーマが1~2があれば、足りない部分を補完できるのではないか？
■成果の出し方／共汗体制について	
第1期の報告書がどうなった？との意見がありました。チーム事情も違いますが、報告書の提出に興味があるのか、それとも、どうやって実現に持っていくのかという自分のアクションに興味のあるのかという違いが大きかったです。	行政と目に見える形で連携をとっていきたい
成果報告会は、どのように活かされるのか？「市」と「担当課」とどの様に、育てて行けるのか？	
この委員会に対しての行政の受け止め方を知りたい。	
各チームの提案(行動)が市民の意見として市の施策に生かされるのか	
1年かけて検討した意見がどんな形で結果が出るのか道筋を示して欲しい！	
果たして実現できるか心配です。	
■2期は大変だ！	
二期では進行が難しくなりますね。がんばってください	
1期よりも委員の思いが強くなるとともに意見も多くなる。意見のまとめや回答などに時間が取られてしまう気がする。モニター委員がでないことを祈ります。	
■第2期の進め方の改善	
1期を終えて、進化する委員会としての内容が弱かった行動する委員会はどうなっているのかな…と。	人数が多いので取りまとめの苦勞を感じます。1本筋を通すことが必要です。
一つの議題について全員で議論する。	
100人の委員さん全員と話したいです。	
個別チームでの活動のほかに、全体を見る役割を初期からの感じとして、やはりもちつづけるべきか。	
目標を固めなく、フレキシブルに会議を進める点は良い。運営、リーダー、幹事、行政の関係性、立場などを明確にし、絶対不動のルール前提を作って共有する必要はありそう	
遅刻者があつたとしても定時にスタートするのが社会的常識。毎回遅れてスタートするところを改善して頂きたい。	
第1期の結果や問題点を掘り下げて頂きたい。	
委員会月1回では少ない。	
■時間	
自分の余った時間にはいかず、若干自分の時間を圧迫している。「行動する委員会」とはいえ、あまり忙しと困ります	仕事家庭との兼ね合い、両立
■勉強会について	
Webサイトの作り方講座も開いて欲しい。Flashとか。	
■委員会の広報	
個々の委員へもそうですが、事務局に市民への広報の増強をお願いしたい。(市民新聞を見ない層とか)	
■事務局への要望／質問	
きまりごとのお知らせが遅い。	事務局がNPOというのはどうなのでしょう。メンバーが主体になったほうがよいのでは。市との連携が見えにくい。
必要なことを短くわかりやすく説明して欲しい。	
参考図書など活動費で買えるか？予算執行開始は？	
子どもさんは遠慮して欲しい。子どもさんがかわいそう	

■第1回会議OST／チーム登録一覧表

★:新議題【 】:幹事

<第1期>チーム

	<第1期> チーム名	第2期第1回定例会議 OST提案名	提案者	継続委員エントリー	新委員エントリー	人数	幹事	リーダー	サブ	連絡役
	まちづくりは人づくりから	まちづくりは人づくりから／ハッピー子育て塾	白井	白井徹子、村木博隆(欠席)、尾崎愛子、長屋博久、梶宏	吉崎純子	6		白井	村木	村木
	京都にこわく	子どもが(大人も)にこにこわくわく育つ環境づくり	佐藤	【青木純平】竹内香織、佐藤友一、篠原幸子、爾英晃、石盛真徳、山形悦久、佐々木真、廣江吉信、勝見九重、岡本敏子		12	1	佐藤	青木 廣江 竹内	青木
		★児童公園の有効利用	石原		石原早苗					
	人をつなぐ福祉のコミュニティづくり	人をつなぐ福祉のコミュニティづくり	長澤	長澤哲也、中前紀子、西博三、丹羽國子(欠席)、大西佳子(欠席)、山地敏明	巻出恵美子 (傍聴:国定若菜)	7		長澤	西	長澤
	岡崎ホールディングス	岡崎地域の活性化のため京都市美術館／京都市動物園人々の心を豊かにする地区・岡崎	丹羽	【丹羽妙】【美濃部竜治】【乾明紀(欠席)】土岐利加、井上翔一、栗山文孝、山田寛仁、土肥真司	藤井容子 (傍聴:岩本好子)	9	3	丹羽	土肥	丹羽
	歩きやすい道	歩いて道の情報集めましょう	田村	田村剛、リチャード・シルバー、中村善治	森村八重子、岡本紳吾、土岐智賀子、柗木きよみ	7		田村		田村
	のりもの	のりもの 京都の交通問題を考える	吉川	尾形浩一朗、池口誠一、須藤篤志、岡野真之、川本力、二塚敬子、吉川忠男、富吉満之、堀川浩、酒井弘	熊田健太郎	11		川本		
	城と堀川	城と堀川／二条城と堀川を中心に新しいまちづくりをします	若村	若村亮、全永奈、峰谷尚、芳村誠二、荒木本恵、駒井義弘、矢野睦子、木村寿夫、野村正樹、松江仁、小泉光太郎	岡田辰雄、森明子、狭川尚己	14		若村	駒井	若村
	市民のおもてなし力を向上させる	市民のおもてなし力を向上させる	吉見	【上田雅弘】【平井誠一】吉見誠一郎、藤林茂二、太田航平	千田愛優美	7	2	吉見		吉見
		★京都らしい「食のバリアフリー」の為の情報発信	彌永		彌永祥子					
	DVS							立松	堀田 宇野	宇野
	市民の景観	市民の景観／景観を語る文化を育てる／景観からまちづくりを育てる	内藤	【宗田好史】内藤郁子、大西健吾、高野忠男、森本浩行、河辺清美、高木英二、松本よし子、石倉宏、中村伸之	奥田美沙子、藤崎壮滋、富家大器	13	1	内藤		内藤
	山紫水明の京都	山紫水明の京都	上原	【上原智子】【中園涼子】高嶋加代子、上萩寛、堀正勝、吉川哲雄、朝倉真一	齋藤義憲、吉村雅美	9	2	上原		上原
	きわみ 一京都・若者・未来の構想	きょうと若者100人委員会	新妻	【船戸潤子】【新妻人平】【秋元宏美】堀田芳子、筒井洋一、田中翔【廣岡睦】、筒井洋一	桑原真明、鈴木陽子、岡本和徳、永井亮希	12	4	新妻		新妻
	京都の無駄を斬る六人の侍			坂田文保		1				
	★災害に強い「防災・減災のまちづくり」		高瀬	高瀬博章		1				
	★京都市のウエルネス・タウン化(京都に住んで良かったねと言えるまちづくりの具体的アプローチ)		萩原	萩原三義		1				
	★過疎地問題解消まちづくり		小辻		小辻寿規、徳田好朗	2				
	★外国の方うれしい街へ		大西		亀田峻宣、橋本皓平、松石敏治、吉川克哉、大西武	5				
	★みつばちチーム		深田	深田雄志		1				